

もっと仲よく暮らすために

女と男



かれんと

No.24

2004.3.25

Current:カレント

時代の流れあるいは
新しい潮流

主な内容

- パネル ディスカッション
- 活動事例発表
- 栃木県女性の海外研修報告
- ひとくちメモ

※「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

平成15年11月15日、男女共同参画社会づくりの促進や啓発を図ることを目的に、栃木県・鹿沼市・粟野町・鹿沼市女性団体連絡協議会・粟野町女性のつどい実施委員会の主催により「男女共同参画地域連携フォーラム」が行われました。

地域住民の中から男女2名ずつが参加し、日頃の取り組みについて議論しあった「パネルディスカッション」、会員による寸劇「どうする？ 私たちのこれから」、事例発表「ふるさと創生『遊の郷』の活動」など、有意義で多彩な催しでした。

個性を活かし持てる力を充分に発揮するために、女も男も、お互いを尊重し合っ
て生きることが大切であることを、具体的な事例を前にしっかりと実感するこ
とができました。

これからも市民と行政が共に手を携えて、男女共同参画づくりを推し進めるこ
とが重要であると感じています。

今回は、このフォーラムの内容を取り上げてみました。

パネルディスカッション

わたしたちは、今

自己紹介

新川 自己紹介をお願いします。若手のホープ中田匡和さんからどうぞ。

中田 初めまして。私は21歳で村井保育園で保育士として働いています。職員は園長を含め31名おり、その中で男性は私1人です。全国で男性の保育士は約7,000名いますが、1パーセントにもなりません。



中田さん

鈴木 私は、自営業をしながら、学校のPTA活動をしています。粕尾小学校の学校支援ボランティアもしています。世間から隔離されたように思い、ボランティアに参加し、自己研鑽をし、男の人と対等に考えを述べ、夢や希望を持って自分自身も輝いて生きていきたいと思っています。

小林 美容室を経営しています。美容室は、9時から5時を営業時間とし、日曜日は休みにしています。仕事をしたい人、したくとも自分の技術を生かせない人、そういった人たちに働いてもらうかと思いましたが、結婚や出産のためにいったんリタイアした人達の折角

覚えた技術を生かして、家庭と職場の両立をして欲しいと思います。

齋藤 栗野町の農業委員をしています。3世代同居の嫁として、42年前、なんて男女差別の大きなところだったんだらうと思います。平成3年に夫が他界し、私自身が自立をしなければならぬ必要に迫られました。農業委員19名中女性は、1人です。女性がひとりでは困ります。女性の農業委員を増やしたいと四苦八苦していますが、なかなか手があがりません。女性がもっともっと男性の中に参加する気構えが必要だと思っています。

これからは女性参画の時代

新川 齋藤さんの話に大事な問題が提起されましたね。農業を担っているのは女性です。自治会もそうです。学校のPTAもそうです。実態は女性が活躍しているのに、ねじれた男社会になっています。女性自身がしり込みをしてしまうのですね。やらないのですね。中田さんは独身ですね。結婚したいですか。

中田 結婚したいです。早いほうがいいかなと思います。縁があれば。しかし、女性が多い職場での収入は少なく、結婚して一家を養おうとすれば無理ですね。

新川 女性の職場は、賃金が安い

ですか。看護師さんもそうですね。結婚はしたいが思い切ってプロポーズできないんですね。何で、男の人が女の人を養うの。

鈴木 食わしてやらなきゃというけれど、私だって対等です。家庭の中で主婦業していると、本当に大変です。食べさせてもらってよかったと思う反面、今までの体制のままではいのかと思います。お互いに分担して家庭生活を営んでいくべきですね。

新川 社会全体が男の子は大黒柱にならなきゃならないんだと教えてしまったから、プロポーズも出来なくなってしまうんですね。今は、そんな高い給料を払ってくれる会社も少なくなってしまうんです。共働きがいいんですよ。お金のことで悩んで結婚しないということはありません。結婚すると食えちゃうんです。

齋藤 日本の食糧の自給率は40パーセントです。残り60パーセントは、外国から輸入しています。今の農業を担っているのは女性です。大事な農業の審議の場に今まで女性がいなかったということが問題なのです。



齋藤さん

中田 女性参画の時代ですね。女性だけの職場について体験上思うことは、女性は強いということですね。新川 男性は、自信を無くしています。女性のほうが元氣です。では、次に専業主婦の問題についていかがですか。

専業主婦と103万円の壁

鈴木 地域性の問題もありますが、嫁が外に出て行くのは歓迎されないのです。専業主婦は工夫すれば勉強をする時間はあると思います。意識改革の必要があると思います。生涯学習が必要ですね。



鈴木さん

新川 専業主婦をしていると寂しくなるのですね。世の中から取り残されてしまうような気になってしまふのですね。職場で一旦リタイアしてしまうと、もう一度復帰できる環境はありますか。働かざるで損をしてしまう103万円の壁はどうですか。

小林 103万円に抑えないとご主人の扶養に入れないのです。男性も女性も関係なく能力のある人はいるのですが、私のところでは歩合制にしています。本当はもっと働



パネリスト

中田 匡和さん(保育士) 齋藤 道子さん(農業委員)
鈴木 幸美さん(P T A) 小林 一史さん(美容室経営)
コーディネーター
新川 忠孝さん(下野新聞社顧問)

家庭と子育て

いて欲しいし、経営の面でもやり
にくいのですが押さえつけられて
います。自分の能力がいくらあつ
ても發揮できない、ある意味で後
退してしまつてことすらあります。

新川 家庭を論じましょう。

鈴木 自分が勉強しなければ、子
どもに話を出来ません。自分が生
きていく上で大切なことを学んで
いる姿を見せていなければ。

新川 大人は大人として勉強する
事がありますね。家庭教育の中で
簡単には実現しないかもしれない
ですね。共働きをどんどんやって
女が世の中に出て行くべきです。
そんな時、育児がネックになりま
すね。3歳児神話というものがあ
ります。3歳までは母親のそばで
育てなければよく育たないとい
う。そんなことはありませんよ。
子どもは早くから他人に預けたほ
うが良いんですよ。

小林 我が家は、0歳児から保育
園を頼りました。今年エステイ
ックサロンを開くの、面接で夢
や希望は何ですかと質問しまし
た。ありませんという答が多かつ
たのには驚きました。成長する過
程において自ら選択をしていない
のですね。目標を立てている子ど
もが少ないように思います。決め
られた階段を上がりせられていま
す。



小林さん

新川 昔から農村では子どもを大
事にばかりしていられたかったで
しょう。

齋藤 4人の子どもを放任して育
てました。それがかえつてよかつ
たのかもしれない。何事も自分
でやりますから。

新川 子どもを保育園に預けると
駄目になっちゃいますか。

中田 そんなことは無いです。子
どもにとって何が一番大切かとい
うことを保育園では常に考えてい
ます。親御さんにお願ひがありま
す。お子さんと真正面から向き合
って欲しい。お子さんとスキンシ
ップを図って欲しい。見守つてあ
げる姿勢をとって欲しい。

新川 真正面から向き合つて欲し
いのですね。家庭教育の現場から
両親も目覚めていく必要がありま
す。これからの時代にあった仕事
を見つけてみましょう。

今後の課題

齋藤 女性の意識が大切ですね。

今は、家族経営協定というものが
あって、お嫁さんが給料をもらえ
る仕組みもあるんです。参画する

ことが大切なんです。地方の女性
は取り残されています。「道の駅」
は、全国に743か所ありますが、農
産物を直売所に出しているのは女
性です。仕事にも参加し、政策決
定の場にも参画していくことが大
切です。

新川 つぶされちゃうんですね、
一人では。それに女性の方がしり
込みしてしまつ。小中学校の先生
は女性のほうが多い。ところが管
理職になる女性が少ないんです。
教頭までは引き受けるが校長の場
合勘弁して欲しいと責任の重さに
しり込みしてしまつたのです。男は
どんどん引き受けて伸びていくの
に。大黒柱の意識があるんですね。
女性には少ないんです。結婚とい
うことでまた大いに変わつてしま
います。優秀であればどんどん取
り上げられていけるのだが、20年
30年という時間の中で差がついて
しまふのです。女性が昇格しない
という問題があります。やる気が
男性より女性のほうが欠けること
もあります。



新川さん

小林 垣根を越えて、社会では同
じですから。能力があれば、男も
女も関係ありません。女性だから

こそ出来るきめ細かな配慮があり
ます。

新川 セクシユアル・ハラスメン
トは男性側に多いですね。まだま
だ日本ではその対応に甘く、今後
の課題です。これからの社会に望
むことは何ですか。

鈴木 男女共同参画社会を実現す
るために行動しましょう。

新川 農産物の直売は、栃木県が
トップです。中心は女性です。

齋藤 今までは、山村は取り残さ
れていただけこれからは女性が
活躍するときは。今、少子化が
問題になっていますが、我々の子
どもたちが結婚して、子育てをど
うするかかかっています。子育
てと仕事の両立は今後の大きな社
会問題です。

新川 子育ての社会化は遅れてい
ます。ファミリーサポートセンタ
ーも出来ていますが、もう少し安
くなるといいですね。まだまだ政
策の展開が必要です。今、自信の
なくなっている男性がいっぱいい
ます。リストラなどで、自殺者も
多く年間3万人を超えています。
今年宇都宮で男性学の講座を開設
したところ大入り満員でした。女
性の悪口も出ましたよ。男性側
にも嘆きがあるということも女性た
ちも知つて欲しいと思います。

(パネルディスカッションの
一部を紹介しました。)



大島 れい子さん



寸劇「どうする？私たちのこれから」

活動事例発表

鹿沼市女性団体連絡協議会

寸劇「どうする？私たちのこれから」

結婚・高齢者介護・自治会について、いままでとこれからの違いについて寸劇にして演じました。

ふるさと創生「遊の郷」の活動 栗野町の大島れい子さんが「遊の郷」の活動について報告しました。

会場の声

いろいろな工夫を凝らしたフォーラムでよかった。ちよつと長い時間でしたが、設定が変わるのであきなかった。意識の改革は必要ですが、社会の体制が変わらないとむずかしいと思います。

(30代女)

女性は女性の集まり、男性は男性の集まりで話し合いをしている機会が多いと思います。もっと男女が同じ土俵で、本音で話し合えたらいいと思います。

(40代女)

今回参加して大変良かった。若いときに参加していれば私の人生も変わっていたかなと思います。

(50代女)

大変よかった。このような活動について地域でもやって欲しいと思います。いなかの方こそ保守的で男性上位の気持ち強い。

(60代男)

栃木県女性の海外研修に参加して

心豊かな社会を目指して

田中 京子(松原)



今回、男女共同参画社会の実現に向けて女性のエンパワーメント(力をつけること)を図ることを目的とし、女性の地位向上の取り組みの先進国であるオランダ、フィンランド、そして栃木県の友好交流県であるフランス・ヴォークリューズでの研修に参加する機会を得ました。

各国を訪れて強く印象に残ったのは、それぞれの土地の文化を反映しつつ自然と調和のとれた街並みの美しさでした。そこには人々の国の歴史や文化を大切にしているアイデンティティと共に、自然と人間の共存というテーマを感じることができました。日本を改めて振り返ると、経済先進国としてのつげは人の心の豊かさを奪い、それがそのまま調和のない都市や、自分さえよければという個人主義となつて表れているように思います。男女共同参画社会の問題も、環境破壊の問題も、解決のための根幹は一つ。一人一人がそれ

ぞれの人や物とのつながり、その価値や尊さを自覚し、共に生きるための方策に真剣に取り組んでいく必要があることを実感しました。

心豊かに

篠崎 奈緒美(塩山町)



昨年10月に、オランダ、フィンランド、フランスでの研修に行つてまいりました。

オランダでは、ライデン大学にて、ワークショップについてお話しを伺うことができました。自分のライフスタイルに応じた労働を選択することができるといった画期的なものでした。

次の訪問国はフィンランド。首都のヘルシンキは、森と湖に覆われた大変美しい街です。ここでは、国会議事堂、老人サービスセンター、女性が経営する農場の3施設を訪問しました。どの施設へ行っても、女性が生き生きと働き、パワフルな女性のある方がかりでした。そして、老人サービスセンターでは、質素ながらも、自分らしい生活をしながら暮らして

いた。フランスでは、初めてのホームステイを体験しました。緊張する私を温かく迎えてくださり、とても楽しく4日間を過ごすことができました。言葉は通じなくても、思いやる気持ちは伝わるものだと実感しました。

国や文化、世代、性別、あらゆる違いを越えて、お互いに認めあう社会でありたいと思いました。



ひとくちメモ 家族経営協定

農業等の経営上の役割分担や地位を明確にする、家族内で作られるルールのことです。労働報酬、経営方針の決定、収益の分配、労働時間・休日等について、家族で話し合つて定めようというものです。

編集後記

鹿沼・栗野の女性たちの企画・運営により、地域住民が参画した地域フォーラムの開催。問題提起にも親近感があり、会場と一体となった面白い試みとなりました。

今年は申年。互いに良く見、良く聴き、対等に話し合いの出来るより良い男女共同参画社会づくりの歩みが一段と進む年になることを願っています。